

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-61	15-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Modifiable Factors Associated With Copeptin Concentration: A General Population Cohort. コペプチン濃度に関連する因子の検討: 一般集団コホート研究		
執筆者		
Maatje D.A. van Gastel, Esther Meijer, Lieneke E. Scheven, Joachim Struck, Stephan J.L. Bakker, Ron T. Gansevoort		
掲載誌		
Am J Kidney Dis. 2015. 65(5):719-27, DOI : 10.1053/j.ajkd.2014.10.009		
キーワード		PMID
コペプチン、バソプレッシン、一般集団コホート、生活習慣、食事		25500109
要 旨		
目的: バソプレッシンは体液量の恒常性維持に重要な役割を果たしている。しかし、近年の研究により、バソプレッシンには慢性腎臓病を進行させる有害作用も存在するという可能性が指摘されている。本研究では、バソプレッシンのサロゲートマーカーとしてのコペプチン濃度と関連する生活習慣因子および食事関連因子について検討する。		
方法: 大規模一般集団コホート調査 (Prevention of Renal and Vascular Endstage Disease, PREVEND)の対象者のうち、コペプチン濃度を含めたデータ欠損者を除外した 6,801 名を本研究の対象者とし、生活習慣因子および食事関連因子とコペプチン濃度との関連について重回帰分析を用いて検討した。		
結果: コペプチン濃度の中央値は 4.7 (IQR: 2.9-7.6) pmol/L であった。重回帰分析の結果、コペプチン濃度が高いほど 24 時間尿量が少なく (P<0.001)、ナトリウム排泄量が多く (P<0.001)、収縮期血圧が高く (P<0.001)、現在喫煙者が多く (P<0.001)、アルコール摂取量が多く (P<0.001)、尿素排泄量が多く (P=0.003)、カリウム排泄量が少なく (P=0.002)、BMI が高く (P<0.001)、血糖値が高い (P<0.001)という結果を認めた。CRP および降圧剤服用 (利尿剤あるいはその他)はコペプチン濃度との関連は認めなかった。		
結論: コペプチン濃度に関連する重要な因子として、現在喫煙の有無、アルコール摂取、特に尿量 (体液量)およびナトリウム摂取などが考えられた。これらの因子に介入することでバソプレッシン濃度が低下し、腎臓に対し有益な影響を与えるかどうかについて検討する必要性が示唆された。		